

平成二十二年二月八日提出
質問第八九号

地方の国立大学法人への政府の対応に関する質問主意書

提出者 橘 慶一郎

地方の国立大学法人への政府の対応に関する質問主意書

地域において国立大学法人は、それぞれの地域の特色を生かした研究・教育の拠点として重要な役割を担っている。産学官の連携を通じた地域の経済・社会の発展への貢献や、地域の活力の源となる若者の集う場所として地域活性化の観点からもその健全な発展が期待される。

一方、国立大学の法人化を通じ、大学改革が進められてきたが、一定の年数を経過し運営費や評価方法について見詰める時期に来ているものと考ええる。については、政府の考え方について以下の三項目にわたり質問する。

一 地域の「知の拠点」としての国立大学法人の果たすべき役割についての鳩山内閣としての見解をうかがう。

二 景気の大幅な落ち込みにより、外部資金の導入は以前よりも困難となり、国からの運営費交付金の役割が重くなると思うが、当面の政府としての方針をうかがう。

三 個々の国立大学法人については、詳細な自己評価が義務付けられているが、文書の量にしても大部なものとなっており作成側、評価側とも多大な労力を費やしているものと思料する。これまでの実績を踏ま

え、簡素化すべきではないかと考えるが、政府の見解をうかがう。
右質問する。